



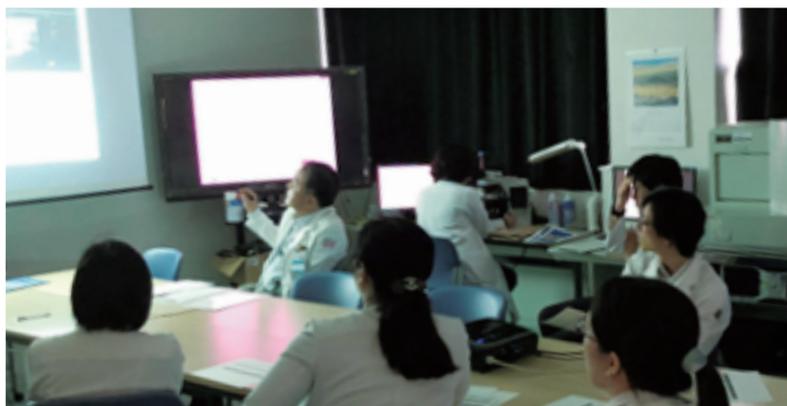
医局だより

広島大学病院乳腺外科

甲斐 あずさ

【私たちの医局】

こんにちは、広島大学病院乳腺外科です。当科は、現在常勤医師8名が所属しており、日本乳癌学会乳腺専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医をはじめ専門性をもったスタッフに加え、志を持った若手医師が集まり、全体がチームとなって診療を行っています。大学病院としての役割である研究・教育にも注力し、治験・臨床試験への積極的な参加、国内外での学術活動、専門医の育成を活発に行っています。今回はその中でも特に誇れる私たちの活動をご紹介します。



【特徴的な取り組み】

■臨床試験・治験への積極的な取り組み

当院は、大学病院としては比較的少ない日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)の参加施設です。また、昨年末に術後治療として保険適応となったアベマシクリブのMonarchE試験への登録数は最多で、現在もDESTINY-Breast09、同-11試験に参加しています。国内外の臨床試験・治験に積極的に参加し、乳癌治療のエビデンス構築に貢献しています。

■遺伝性乳癌 診療体制の構築

近年の大きなトピックスである遺伝性乳癌の

診療では、保険収載された2020年4月からの一年間で、乳腺外科外来に通院される乳癌患者さん2128例に関して拾い上げを行い、BRCA 遺伝学的検査保険診療対象者1026例のうち270例がBRCA 遺伝学的検査を希望されました。遺伝性乳癌診療に関する当科の熱意のみならず、遺伝子診療科や、サーベイランス・リスク低減手術に関わる各診療科による前向きな取り組みにより、遺伝性腫瘍に関する診療の体制づくりが速やかに実現しました。風通しの良い連携は、患者さんにとってベストな医療を提供できること

はもちろん、私たち自身の働きがいにも繋がっています。

■乳がん啓蒙活動

乳癌診療に携わる医療スタッフが中心となり、毎月「まちなかりボンサロン」を開催しています。最近では新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けてリモート開催になりましたが、全国から毎回70~80人の患者さんが参加さ

れます。また、「広島大学病院乳腺外科ブログ」(<https://ameblo.jp/hubreast2018/>)を毎日交代で更新し、乳癌に関する最新情報から日々のつぶやきに至るまで、発信しています。有名ブログサービスの病院・クリニック部門で第1位になったこともあり、1日平均約8,000件のアクセスがあります。コロナ禍では乳がんの啓蒙活動を継続できないことが懸念されましたが、患者さんからの強い希望もあり、密を避けることが勧められる昨今の環境下でもがん治療が孤独な闘いとならないよう支援する機会を提供しています。

医局だより

■高校へ出張講義「乳房と乳がんのお話」

2016年から県内の高校などで出張講義を行い、「乳房と乳がんのお話」と題した乳がん教育活動を継続しています。これまでに延べ8,000人を超える学生に聴講いただいております。昨年には若い方にもわかりやすい講義用のパンフレットを作成しました。授業後は持ち帰ってご家族とも共有していただく課題をお願いし、聴講した



若い方のブレストアウェアネスを推進と周囲の乳癌世代への啓発を期待しています。パンフレットの送付をご希望の場合は、ひろしまピンクリボンプロジェクト HP(<https://pinkribbon-h.com/>) よりご連絡下さい。

【皆さまへメッセージ】

広島大学病院乳腺外科は、これからも地域の皆様に質の高い医療を安心して受けていただけるよう、最新の知見を取り入れ、また地域に根差し患者さんに寄り添った診療を心掛けていきます。時代のニーズに合わせた対応を柔軟に取り入れ、全国に向け情報を発信し続けられるよう進化していきます。今後とも変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。